

1. 町田市立国際版画美術館の外構（アプローチと庭園）が壊され、殺伐とした場になってしまう



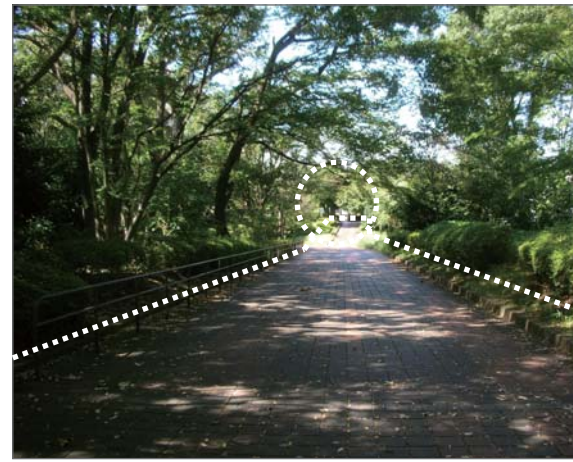
桜の並木のプロムナード。花見会場になる平らな点線箇所にはスロープを設け落ち着いた美しい佇まいを壊そうとしている。

写真-1



点線箇所に工事車両の進入や竣工後のサービス用通路を新設し、版画美術館の外壁と同質のレンガタイルのしゃれた門柱を壊し、木を伐採しようとしている。

写真-2



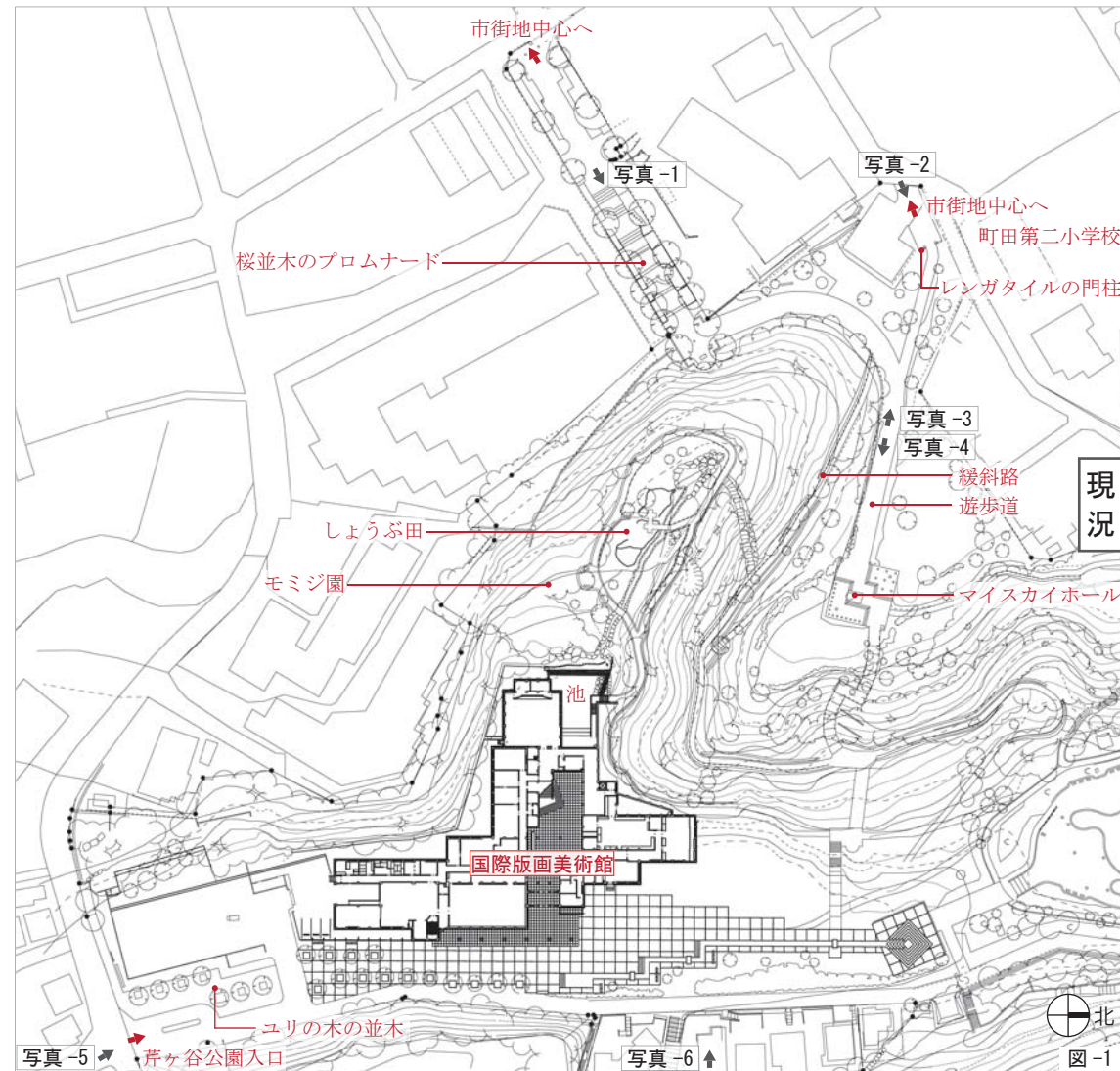
近隣住民の生活道路であり町田第二小学校の通学路でもあるこの心地よい遊歩道（点線箇所）が壊され、自動車路となり安全性が損なわれるだけでなく、殺伐とした道となる。最奥の樹木は伐採される。（写真-2参照）

写真-3

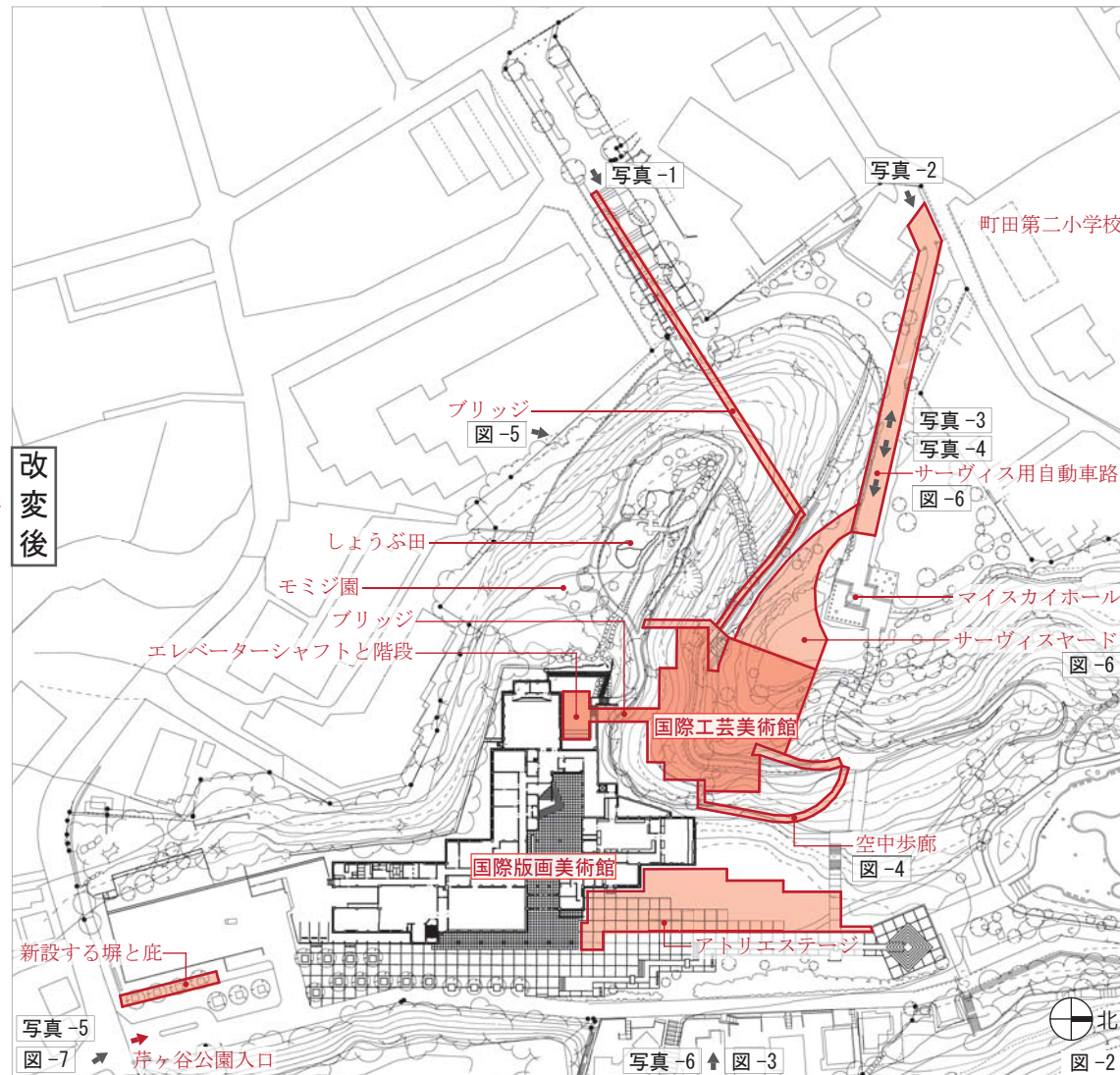


この写真の点線箇所内の樹木のほぼすべてが伐採され、遊歩道は自動車路とサービスヤードになる。正面のマイスカイホールという既存の彫刻の周辺が荒廃する。

写真-4



改変後



版画美術館に続くユリの木の並木。図-7にあるように、この連続性を切断する無機質な塀と庇が計画されている。

写真-5



工芸美術館建設予定地の現在の様子。左下の緑色の屋根の建物が版画美術館であり、版画美術館の右奥の多くの緑（点線箇所）が伐採されてしまう。

写真-6



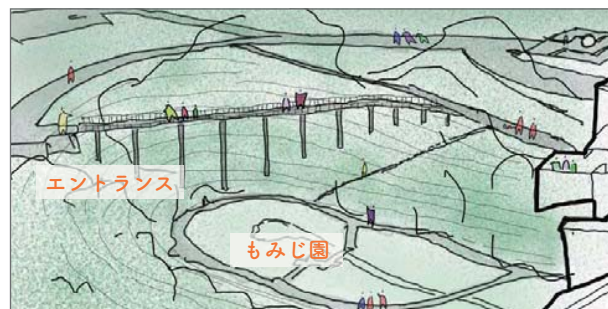
町田市資料による工芸美術館の完成予想図である。左手にあるのが版画美術館。版画美術館と工芸美術館の間に森が残るよう表現しているが、実際はほとんど残らない。（図-4参照）また、工芸美術館の形、素材、色が版画美術館に調和していない。

図-3



町田市資料による工芸美術館東側に新設される空中歩廊。既存樹木をほとんど伐採している事がわかる。

図-4



町田市資料によるとモミジ園上空にブリッジが計画されている。ブリッジの柱のために既存の樹木は伐採される。

図-5



町田市資料によるとアプローチ遊歩道は自動車路に改変される。既存樹木は伐採され、自動車路とサービスヤードになる。

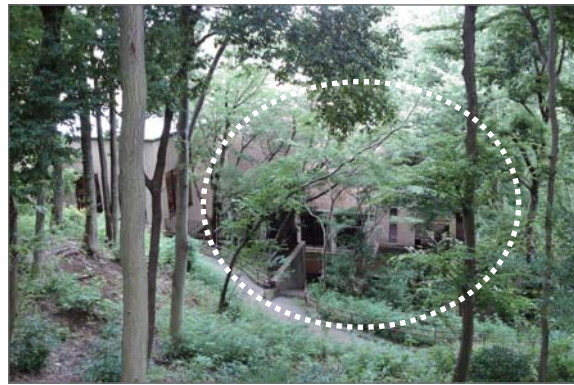
図-6



町田市資料による新設の公園入口の塀と庇。ユリの木の連続性を遮断する。塀と庇の素材は隣接する版画美術館の外壁と調和性がないデザインとなっている。（写真-5参照）

図-7

2. 池のある庭園が壊され、エントランスホールと2Fの展示室前ホールが生活通路となる。展示室の直近に外からの入口が設けられることで、展示室内の温湿度が乱れ、美術品への虫害危険もあり得る



エレベーターシャフトと階段室の杭工事、土工事、仮設工事等々により、多くの緑（点線箇所）が伐採される。写真-7



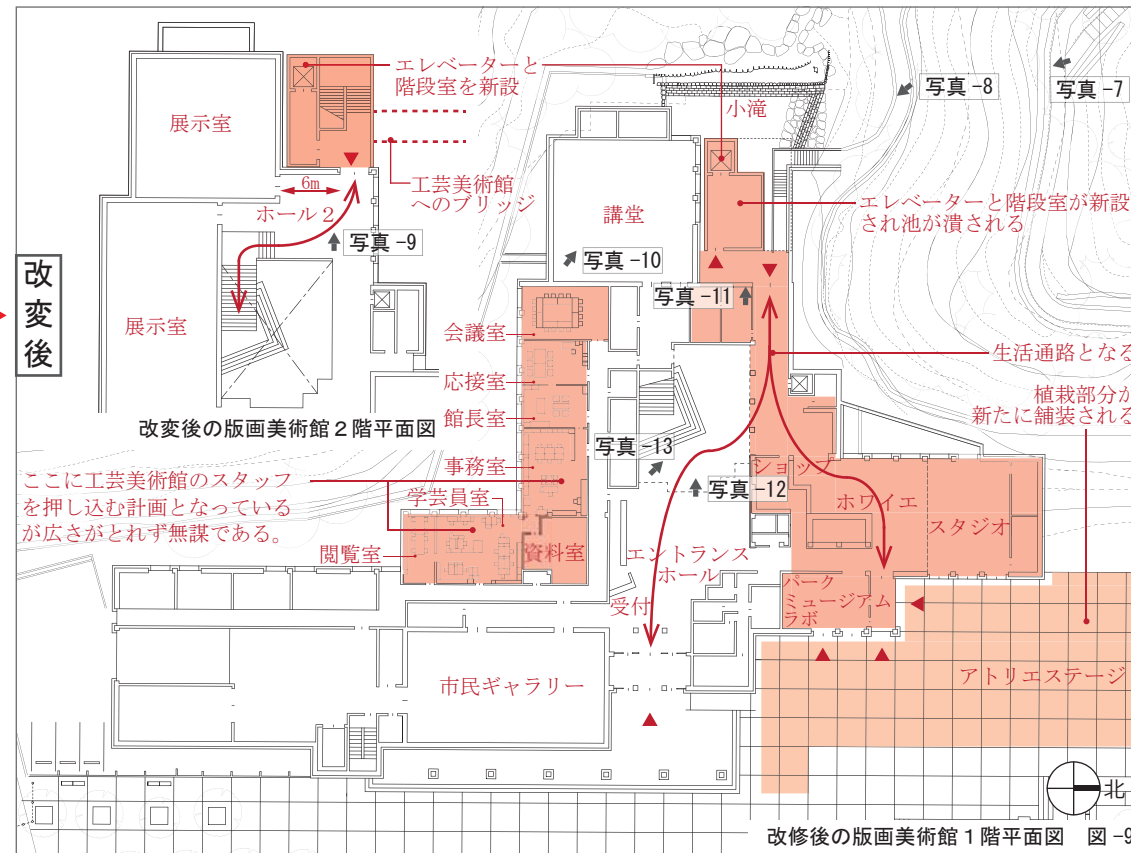
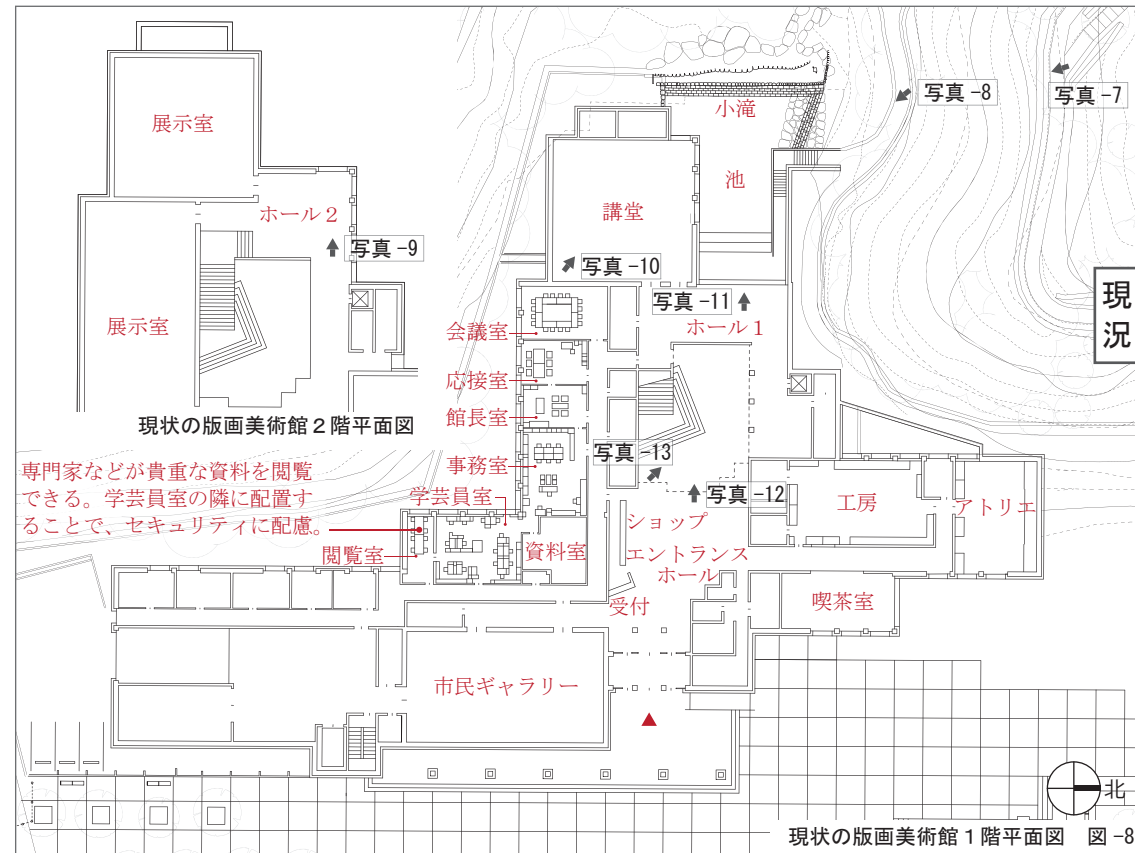
池の全域（点線箇所）がエレベーターシャフトと階段室になり、全破壊される。写真-8



池のある庭とその奥のモミジ園が見えなくなるだけでなく、この窓を壊して外部及び工芸美術館からブリッジ経由で市民が入ってくる。展示室入口までの距離は6 mしかない。写真-9



落ち着いた雰囲気の講堂。右奥の窓（点線箇所）からは池のある庭やモミジ園が見えるが、この窓がエレベータシャフトと階段室により塞がれてしまう。写真-10



この池ほぼ全面を潰してエレベーターシャフトと階段室を設けようとしている。講堂の窓が塞がれ、窓から見える池のある庭やモミジ園への眺望が失われる。（左）写真-11



現在の版画美術館のエントランスホール。ここが生活通路となり、雨や雪の日には濡れたまま雨傘を持って人が往来する。美術館のエントランスホールとしての静寂で優雅な雰囲気が損なわれる。（左）写真-12



市は1Fの大谷石の列柱の間に、自動扉のガラスサッシを計画している。エントランスホールの奥行きが失われるとともに、2Fの列柱と合わせたデザインが破壊される。（右）写真-13